

“癒し猫”があってもいい

上條優子

我が家は今、人の子の一歳児が三人同居しているも同じ状態。この三人のやんちゃぶりは、天衣無縫と言えば聞こえはよいが、つまるところは傍若無人。いまこれを書いている時刻は夜中の十二時を少しまわったところ、夜行性の三人のやんちゃが最高潮に達する時間帯なのか、家の中は馬術大会かレスリング大会の会場さながらの最中である。

この騒ぎもこの時間帯だと許せるが、時々、中学生の勉強時間中にやってくれるのが頭痛のタネ。勢いあまって机の上に飛び乗り、中学生がノートの上に走らせている鉛筆にチョイ、チョイっと手を伸ばすこともあるのだから、月謝を頂戴している身としては、いささかどころか、大いに気が咎めるのだ。そこである夜、

「イヌには、盲導犬・聴導犬・介助犬・救助犬とかいろいろあるけれど、ネコには何もないんだよね。」と、中学生とその背後にいる彼らの親たちが、ネコに邪魔される学習塾のことをどう思っているのか探りたい気持ちも含めて言ってみた。と、T君が一言呟くように言った。

「癒しがあるー」

我が家の三人は、ひとりとしてまっとうな生い立ち

をしてないだけに、育てるのに苦勞をした。毎朝のトイレの始末は並大抵なことではない。それでも叱言を言いながらも同居を続けているのは、どこかで癒されているからこそであり、中学生も厳しい勉強を強いられつつも、夜、ここまで通って来るのも、やんちゃな三人に癒されることがあるからこそなのではないだろうか、いろいろなことをT君の「癒しがあるー」という言葉は、思わせてくれた。

が、それにしても、我が家の三人の振る舞いが、なんと人間くさいのが不思議だ。



こんにちは。「タマのともだち」です。

タマのともだち 佐藤美恵子 高橋善枝

私達は、平成7年から猫の救済活動をボランティアで行っています。

活動の内容は主に、

★子猫の里親探し。

★野良猫にエサをあげている人からの依頼を受け、猫を捕獲し避妊去勢手術を行う。

★猫の飼ひ方相談、しつけの仕方などのアドバイス。この3つを行っています。

子猫の里親探しの依頼で最も多いのが、「子供が子猫を拾ってきてしまって・・・」です。子猫を捨てる場所として、人目につかない場所（山や河川など）と子供の目に付きやすい場所（学校や公園、図書館など）があるように思います。

里親探しは「あげます」という側と「欲しいです」という側のタイミングがうまく合えばスムーズに事が運ぶのですが、なかなかそうはいきません。

また猫が欲しいという側にも猫の種類や色の好みがあるので難しいです。（特に白黒のメスは、なかなか貰い手が見つかりません。どうしてでしょうか・・・）

それに生後3ヶ月を過ぎた子猫は「大きいですね～」と言われて断られたりします里親探しはとても根気がいります。

“タマのともだち”では不妊手術のために捕獲した野良猫の数は、捕獲を始めた平成11年からこれまでに40匹を超えました。

依頼をしてくるほとんどの人が「最初はかわいそうだと思ってエサをあげた。でも猫がそのうちどこかに行ってくれるだろうと思っていた。気付いたらこんなに増えてしまった」と言います。

安易にエサをあげてしまい、後の事は考えず、どんどん増えて6匹も7匹にもなってしまった時に『困ったどうしよう』と気付くのです。こうなってしまうから不妊手術をするとすると手術代も10万円を超えてしまいます。

野良猫や捨て猫がふえることによって、糞尿などの苦情やトラブル、感染症などの病気が増えます。感染症については猫エイズ（FIV）に感染している猫の数は日本は世界一の汚染国です。猫は過密からくる猫同士のケンカが原因で感染するのがほとんどだそうです。

今、私達は猫との付き合い方をもう一度考え直す必要があると思いますが、「ねこの会」の皆さんはどう思われますか？